

フェンスに季節の風景画

流山の 保育所 大学生が協力



保育所のフェンスを明るくかわいい絵で彩る学生と園児＝流山市

流山市の東洋学園大学人間科学部のヒューマン・サービスゼミ(福田佳織教授)の3年のゼミ生が同市の認可保育所、江戸川台保育所のフェンスに園児と絵を描いた。新設のフェンスに季節ごとの虫や花などの風景を描き、圧迫感を軽減する官学連携の取り組み。園児たちは「かわいくできた。楽しかった」と喜んだ。

同保育所では隣接地の塀が老朽化したため、保育所側にも高さ2メートル、幅27メートルのフェンスを6月上旬に設置。園を囲うフェンスだけでは殺風景で子どもたちに圧迫感があるため、市が同学部と協力を依頼し、取り組みが始まった。

同学部で「子ども学」などを担当する福田教授のゼミ生は、子どもの心理的な特性や子どもを取り巻く環境の影響などを調査研究している。絵のデザインはゼミ生が考え、子どもたちが

成長していく過程と春夏秋冬の移り変わりを表現。学生と園児で班を組み、大きな木や虫、雪だるまなどを筆で描いたり、塗料を手形に塗りつけたりして花びらを表現するなど、和気あいあいと27メートルの大きなキャンバスを彩った。

副ゼミ長の引地瑞生さん(20)は「A4判の紙にデザインを起こしたが、想像よりも大きかったフェンスに合わせて描くのは難しかった」と苦労を明かした。ゼミ長の渡邊典史さん(20)は「同じ目線で対等に話すことで、子どもたちも心を開いてくれるようになった」と園児との共同作業を振り返った。